

教科目名 環境計画 (Environmental Planning)

学科名・学年 : 都市・環境工学科 5年 (教育プログラム 第2学年 ○科目)

単位数など : 選択 1単位 (後期1コマ, 授業時間 23.25時間)

担当教員 : 亀野 辰三

授業の概要			
<p>本科目は、4 学年で学習した「都市計画」の応用科目として位置づけている。そのために、「都市」を対象として、主として都市環境、環境アセスメント、様々な環境都市、公園緑地、都市景観を取り上げ、基礎的概念を学ぶ。授業の前半では、都市環境の現状と問題点・課題を学ぶ。その際に環境計画に大きな影響を及ぼす地球温暖化防止や低炭素社会実現に向けての方策等も学習する。後半は、環境計画の具体例として「公園緑地」と「都市景観」を取り上げ、景観と環境の関係について学ぶ。また、景観管理のありかたを学ぶ中でこれからの環境保全・環境管理のあるべき姿を考察する。</p>			
達成目標と評価方法		大分高専目標(B2), JABEE 目標(2.1⑤)	
(1) 環境計画に関する基礎理論が理解できるとともに、環境計画論的な見方、考え方ができる能力を養成する。 (定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1, 2	1. 環境概説	○世界と日本のエネルギーと環境保全の関係を学ぶ。また、地球温暖化防止や低炭素社会実現に向けてのエネルギー問題の現状と課題について理解する。	【理解の度合い】
3	2. 都市環境の現状	○都市環境を保全するための法規制や世界の動きについて理解する。	
4	3. 環境アセスメント	○環境アセスメントの基礎や環境基準を学ぶ。	
5	4. 都市環境計画	○世界や日本の環境都市について理解する。	
6, 7	5. 公園緑地計画	○公園緑地の現状と課題を学ぶ。	
8	後期中間試験		【試験の点数】 点
9	後期中間試験の解答と解説	○分からなかった個所を理解する。	【試験の点数】 点
9, 10	6. 都市景観	○都市景観を保全する各種法規制を理解すると共に景観要素を学ぶ。 ○景観条例や景観法を理解し、環境創出・保全の方法を具体例で学ぶ。 ○景観管理の具体例を学ぶ。 ○景観の評価を重回帰分析を用いて求める考え方と手法を理解する。	
11, 12	6.1 都市と景観及び景観要素		
	6.2 景観条例と景観法		
13	6.3 景観管理		
14	6.4 景観の評価		
15	後期期末試験		【試験の点数】 点
16	後期期末試験の解答と解説	○分からなかった個所を理解する。	
履修上の注意	①本科目の修得には自主的および継続的に学習できる力が必要である。 ②環境計画専用の大学のノート (B5 版) を用意すること (ルーズリーフは不可)。		
教科書	平田・亀野・宮原・武井・内田, 環境・都市システム系教科書シリーズ 16, 「都市計画」, コロナ社		
参考図書	講義の時に指示する。		
自学上の注意	教科書を事前に熟読した上で授業に臨むこと。		
関連科目	都市計画, 応用測量学, 地域計画学		
総合評価	達成目標の(1)について定期試験で評価する。総合評価=2回の定期試験の平均。総合評価が60点以上を合格とする。原則として再試験は実施しない。		